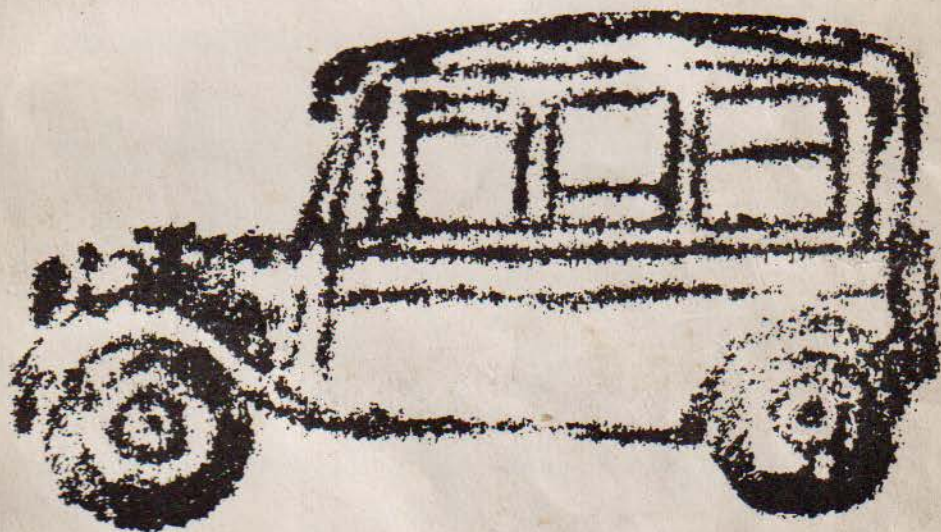


流星

第 12 号



昭和61年度～昭和63年度
平成元年度～平成2年度

九州工業大学 責善会 自動車部

目 次

巻頭言	部長・大西	1
監督挨拶	松尾	3
幹部紹介(昭和61年～平成2年)		4
試合成績(昭和61年～平成2年)		6
春期遠征(昭和61年～平成2年)		8
新部車紹介	須賀	18
九州工業大学責善会自動車部部則		20
OB名簿		30
編集後記		54

巻 頭 言

車 の 運 転

部長 大 西

自動車部部長を引き受けて7年が過ぎ、8年目に入った。学生はいつも20才前後であるのに、こちらは確実に年を取って行く。若い人の運転は華麗でスムーズであるのに対して、こちらは安全確認がオーバー気味になるような気がする。過ぎたるは及ばざるがごとしで、安全は十分としてもモタモタして交通を妨害し、事故を誘発しては何にもならない。

九工大内の官舎に住んで21年、1990年の8月に折尾の郊外に転宅した。戸畑では考えられないほど道が広い。夜10時も過ぎれば華麗でスムーズをはるかに越えた車が時には信号無視で走る。街灯のある市街地あるいは住宅地ではハイビームの必要はない。さすがに対向車があればビームを下げてはいるようだが、歩行者も同じく眩しいという感覚はないようだ。九工大内も同様で、年毎にハイビームが増えている。

自動車部部長（顧問）教官を前任の藤原先生から引き継ぐとき、顧問教官はドライバーであることも条件の一つのようであった。特別にドライバーである必要はなさそうであるが、人間が出せないスピードを人間がコントロールすることで、ドライバーとそうでない人とは基本的な相違がある。例えばワープロにしろマイコンにしろ、コンピューターを使用する人としらない人の認識の相違のようなものである。よくはわからないが、各警察署の交通課のお巡りはドライバーか運転経験者ではなかろうか。さて折尾郊外から九工大に通勤するにバスとJRを乗り継げばドアからドアで45分～60分、自動車では35分～45分、その差は10分余。自動車を使用した翌日は自動車に乗りたくなるが、今のところ週一回21時までの夜間部の授業のある日、不定期ではあるが、八幡の国際研修センターで掛け持ちの授業のある日、さらに気の向いた土曜日程度に止めている。折尾近郊からの通勤者は初めの間は似たような状態であったが、ほとんどは自動車通勤に変っているようである。

以上のような次第で、少しは省エネに協力し、ドライバーでありながら歩行者のつもりでいる。幸いにして長い間、自動車部部員には不幸な事故もなく、いすゞ自動車株式会社のご厚意によって1昨年には部車のジェミニがイルムシャに変わった。昨年は新入部員が僅か1名であったが、本年度は元に戻った。新入部員は例年と同様に北方に通い、無事に免許を取得したようだ。顧問教官の心配が無用となるよう無事故が続き、部員数が減ることも無く、自動車部が発展することを願いながらこの文を終わる。

監督挨拶

松尾 () 4)

諸先輩方おかわりございませんか。時代は平成となり我が自動車部も半世紀の歴史を刻むまでになりました。部車もジェミニを寄贈して頂き、皆で盛んにかつ大切に使用させて頂いております。

平成2年より新たにスラローム用C車両としてスターレットターボを製作し、ダートトライアルでは、全国大会への切符を手にしりましたが、開催地が千葉で行われた為、時間的、金銭的な理由で断念せざるを得ませんでした。

現在、2、3回生が各1名ずつという人員不足に悩ませられていましたが、今年、1回生が約10名程度入部し今後の活躍に期待しております。

少ない部員数ですが、活気のあるクラブにしていくよう、頑張っていきたいと思えます。



幹部紹介 (昭和61年～平成2年)

昭和61年度

主	将	山	下
副	将	藤	井
ラ	一	元	木
書	記	御	領
会	計	坂	田
涉	外	黒	田
ダートラ・フィギア		坂	口
連	盟	古	寺
整	備	永	富
O B 連	絡	小	川



昭和62年度

主	将	藤	島
副	将	山	崎
ラ	一	高	安
書	記	谷	口
会	計	永	渕
涉	外	河	野
整	備	鶴	田
O B 連	絡	城	戸
		今	泉



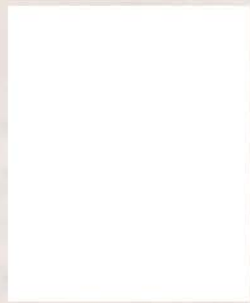
昭和63年度

主	将	林	
ラ	一	家	守
書	記	渡	辺
会	計	今	泉
涉	外	山	崎



平成 1 年度

主	将	須	賀
ラ	リ	福	田
書	記	内	野
会	計	竹	下
渉	外	宗	雲
〇	B 連	絡	森



平成 2 年度

主	将	・	連	盟	松	尾
副				将	白	石
					山	口
ラ	リ			一	山	本
書				記	紙	谷
会				計	吉	住
渉				外	山	下
整				備	山	根
〇	B 連			絡	公	山
流				星	谷	尾



試 合 成 績

昭和 61 年度

- | | | |
|------------------|----|---------|
| 1. インカレラリー | 2位 | 九工大Aチーム |
| 2. 全九州学生ダートトライアル | 3位 | 4月27日 |
| 3. 全九新人戦フィギア | 6位 | 5月25日 |
| 4. 全九州学生フィギア | 5位 | 7月6日 |
| 5. 全九州学生ダートトライアル | 2位 | 10月19日 |

昭和 62 年度

- | | | |
|------------------|----|--------|
| 1. 全九新人戦フィギア | 2位 | 5月24日 |
| 2. 全九フィギア全日予戦 | 5位 | 6月21日 |
| 3. 第25回全九州学生ラリー | 1位 | 8月1、2日 |
| 選手：谷口、渡辺、山崎、林 | | |
| 4. 全九州学生ダートトライアル | 3位 | 10月18日 |

昭和 63 年度

- | | | |
|------------------|----|-------|
| 1. 第26回全九州学生ラリー | | 8月7日 |
| 黒田、元木 | | |
| | 1位 | |
| 藤島、内野 | | |
| | 4位 | |
| 2. 第1回全九州学生ジムカーナ | | 4月29日 |
| C車輛 | | |
| | 3位 | |

平成 元 年度

- | | | |
|---------------------|-------|-------|
| 1. 第9回全九州学生ダートトライアル | | 4月29日 |
| 選手：内野、林、城戸 | | |
| | 11位 | |
| 2. 全九新人戦フィギア | | 6月11日 |
| 小型乗用、竹下 | | |
| 普通乗用、山下 | | |
| 小型貨物、山根 | | |
| 普通貨物、内野 | | |
| | 団体 3位 | |

3. 第2回全九州学生ジムカーナ 7月2日

N車輛 5位

選手：竹下、森、須賀

4. 第27回全九州学生ラリー 7月8、9日

須賀、渡辺 8位

竹下、内野 9位

山崎、林 リタイヤ

平成2年度

1. 第10回全九州学生ダートトライアル 4月

C車輛：内野、山根、松尾 3位

N車輛：白石、山下、吉住

：竹下、山本、紙谷

2. 全九州新人戦フィギア

小型乗用、公山

普通乗用、紙谷

小型貨物、白石

普通貨物、山本 団体6位

3. 第3回全九州学生ジムカーナ

C車輛：林、家守、山根

4. 第29回全九州学生ラリー 8月6日

紙谷、山下 3位

山本、谷尾 リタイヤ

5. インカレラリー

山本、谷尾

松尾、白石

昭和61年度 春期遠征 四国遠征

(1) 遠征期間

昭和61年3月24日～30日 6泊7日

(2) 目的

運転に伴う諸問題の研究と遠征を通じて部員の運転技術の向上及び相互間の親睦を目的とする。

(3) 参加者

隊	長	山本	()	4年)			
副	隊	長	山下	()	3年)		
コ	ー	ス	藤井	()	3年)		
整	備	永富	()	4年)			
会	計	坂田	()	3年)			
記	録	御領	()	3年)			
救	護	元木	()	3年)			
写	真	黒田	()	3年)			
〇	B	会	小川	()	3年)		
調	査	古寺	()	3年)			
ユース	ホ	ス	テ	ル	武宏	()	3年)
車	輜	坂口	()	3年)			
		真島	()	4年)	松原	()	4年)
		高以来	()	4年)	三角	()	4年)
		生越	()	4年)	福田	()	4年)
		小峰	()	4年)	貞苺	()	4年)
		近藤	()	4年)	三好	()	4年)
		柿木	()	4年)	猪原	()	2年)
		今泉	()	2年)	河野	()	2年)
		城戸	()	2年)	高安	()	2年)
		谷口	()	2年)	鶴田	()	2年)
		永淵	()	2年)	山崎	()	2年)
		藤嶋	()	2年)			

(4) 参加車輛

いすゞ	ジェミニ	1600LT	(部 車)
いすゞ	ジェミニ	1600LS	(部員提供)
トヨタ	カローラ	1600GT	(部員提供)
トヨタ	カローラ	1600GT	(部員提供)
トヨタ	スターレット	1300GT	(部員提供)
トヨタ	スターレット	1300GT	(部員提供)
三 菱	ランサー	1600GS	(部員提供)
マツダ	カベラ		(部員提供)

(5) 調査項目

1. 白色車比率
2. シートベルト装着車
3. 女性ドライバー比率
4. 原付運転車ヘルメット装着車
5. STPガストリートメントテスト

(6) コース

- 1日目 工大 - 防府 - 徳山 - 岩国 ----- 松山 - 松山YH
- 2日目 松山YH - 西条 - 金砂湖 - 豊浜 - 金比羅 - 海岸寺YH
- 3日目 海岸寺YH - 高松 - 鳴門 - 徳島 - 阿波池田YH
- 4日目 阿波池田YH - 大歩危 - 高知 - 高知駅前YH
- 5日目 高知駅前YH - 須崎 - 中村 - 宿毛 - 宇和島YH
- 6日目 宇和島YH - 八幡浜 ----- 臼杵 - 佐賀関 - 大分 - 別府YH
- 7日目 別府YH - 宇佐 - 中津 - 行橋 - 工大

昭和62年度 春期遠征 九州一周遠征

(1) 遠征期間

昭和62年3月26日～4月1日 6泊7日

(2) 目的

各部員の運転技術の向上、及び部員相互間の親睦

(3) 参加者

隊	長	高以来	()	4年		
副	隊	長	藤嶋	()	3年	
コ	ー	ス	山崎	()	3年	
整	備	城戸	()	3年		
会	計	河野	()	3年		
記	録	永淵	()	3年		
写	真	谷口	()	3年		
O	B	会	今泉	()	3年	
ユース	ホステル	武宏	()	3年		
保	健	鶴田	()	3年		
	元木	()	4年	山下	()	4年
	坂口	()	4年	古寺	()	4年
	坂田	()	4年	小川	()	4年
	永富	()	4年	御領	()	4年
	黒田	()	4年	藤井	()	4年
	家守	()	2年	渡辺	()	2年
	林	()	2年			

(4) 参加車輛

いすゞ	ジェミニ	1600LT	(部車)
トヨタ	カローラ	1600GT	(部員提供)
トヨタ	カローラ	1600GT	(部員提供)
トヨタ	スプリンタートレノ	1600GT	(部員提供)
トヨタ	スターレット	1300GT	(部員提供)
三菱	ランサーEX	1800ターボGT	(部員提供)

(5) 調査項目

- 1. 車体の色
- 2. メーカーシェア
- 3. GS
- 4. 道路状況
- 5. ドアミラー装着率

(6) コース

- 1日目 工大 - 飯塚 - 日田 - 阿蘇 - 高森 - YH村田旅館
- 2日目 YH村田旅館 - 高千穂 - 日向 - 宮崎 - YH青島
- 3日目 YH青島 - えびの - 人吉 - 八代 - 熊本 - 熊本市立YH
- 4日目 熊本市立YH - 三角 - 天草 - 本渡 - 天草YH
- 5日目 天草YH - 本渡 小浜 - 佐世保 - 武雄YH
- 6日目 武雄YH - 佐世保 - 平戸 - 伊万里 - 唐津 - 虹の松原YH
- 7日目 唐津 - 福岡 - 工大

昭和63年度 春期遠征 中国一周遠征

(1) 遠征期間

昭和63年3月26日～31日 5泊6日

(2) 目的

各部員の運転技術の向上、及び部員相互間の親睦

(3) 参加者

隊	長	山下	()	4年	
副	隊	長	林	()	3年
コ	ー	ス	家守	()	3年
会	計	今泉	()	4年	
記	録	渡辺	()	3年	
整	備	山崎	()	4年	
	元木	()	4年		河野 () 4年
	藤嶋	()	4年		谷口 () 4年
	鶴田	()	4年		野村 () 2年
	内野	()	2年		竹下 () 2年
	須賀	()	2年		宗雲 () 2年
	福田	()	2年		森 () 2年
	後藤	()	2年		中村 () 2年

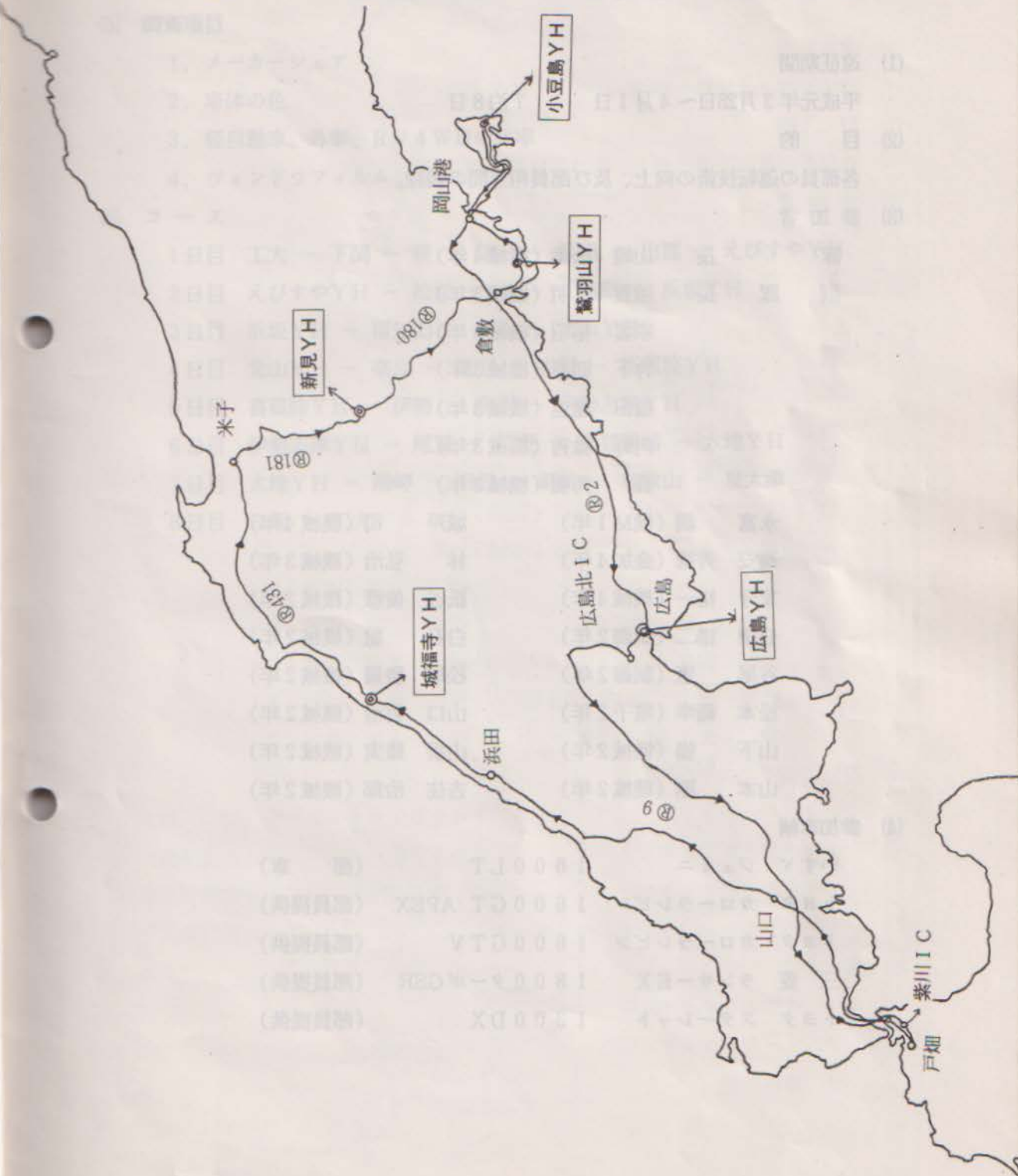
(4) 参加車輛

いすゞ	ジェミニ	1600LT	(部車)
トヨタ	カローラ	1600GT	(部員提供)
トヨタ	スプリンタートレノ	1600GT	(部員提供)
トヨタ	スターレット DX		(部員提供)

(5) 調査項目

1. 軽自動車比率
2. メーカーシェア
3. 車体の色

(6) コース図



平成元年度 春期遠征 山陰、近畿遠征

図表一七 (四)

(1) 遠征期間

平成元年3月25日～4月1日 7泊8日

(2) 目的

各部員の運転技術の向上、及び部員相互間の親睦。

(3) 参加者

隊長	山崎	()	4年		
副隊長	須賀	()	3年		
	宗雲	()	3年		
	竹下	()	3年		
	福田	()	3年		
	内野	()	3年		
	森	()	3年		
永富	()	M1年	城戸	()	4年
高安	()	4年	林	()	3年
家守	()	4年	紙谷	()	2年
公山	()	2年	白石	()	2年
谷尾	()	2年	松尾	()	2年
松本	()	2年	山口	()	2年
山下	()	2年	山根	()	2年
山本	()	2年	吉住	()	2年

(4) 参加車輛

いすゞ	ジェミニ	1600LT	(部車)
トヨタ	カローラレビン	1600GT APEX	(部員提供)
トヨタ	カローラレビン	1600GTV	(部員提供)
三菱	ランサーEX	1800ターボGSR	(部員提供)
トヨタ	スターレット	1300DX	(部員提供)

(5) 調査項目

1. メーカーシェア
2. 車体の色
3. 軽自動車、外車、RV4WDの比率
4. ウィンドウフィルム

(6) コース

- 1日目 工大 - 下関 - 萩 - 益田 - 浜田 - 出雲 - えびすやYH
- 2日目 えびすやYH - 松江 - 米子 - 鳥取 - 浜坂YH
- 3日目 浜坂YH - 福知山 - 京都 - 北山YH
- 4日目 北山YH - 奈良 - 橿原 - 吉野 - 喜蔵院YH
- 5日目 喜蔵院YH - 伊勢 - 鳥羽 - 伊勢志摩YH
- 6日目 伊勢志摩YH - 尾鷲 - 熊野 - 那智勝浦 - 太地YH
- 7日目 太地YH - 潮岬 - 田辺 - 御坊 - 和歌山 - 泉大津
- 8日目 日明 - 工大

平成2年度 春期遠征 九州一周遠征

(1) 遠征期間

平成2年3月24日～28日 4泊5日

(2) 目的

各部員の運転技術の向上、及び部員相互間の親睦。

(3) 参加者

隊	長	林	()	4年)		
副	隊	長	松尾	()	3年)	
コ	ー	ス	白石	()	3年)	
整	備	山本	()	3年)		
会	計	吉住	()	3年)		
記	録	紙谷	()	3年)		
写	真	谷尾	()	3年)		
O	B	会	公山	()	3年)	
ユース	ホステル	山口	()	3年)		
	家守	()	4年)	内野	()	4年)
	須賀	()	4年)	宗雲	()	4年)
	竹下	()	4年)	福田	()	4年)
	齋田	()	2年)	川口	()	2年)
	井	()	2年)	田尻	()	2年)

(4) 参加車輛

いすゞ	ジェミニ	1600イルムシャー	(部 車)
トヨタ	スターレット	1300Si	(部員提供)
トヨタ	カローラレビン	1600GT	(部員提供)
ダイハツ	シャレードデトマソターボ		(部員提供)

(5) 調査項目

1. 女性ドライバー比率
2. メーカーシェア
3. 車体の色

(6) コース



新 部 車 紹 介

須 賀

1989年4月、我が自動車部にジェミニがやってきた。

この車、37年卒のOB 木島 さんを通じ、いすゞ自動車より戴いたものである。これに至るプロセスは、……。

1988年夏、この頃から部車のジェミニについて、いろいろ部内で話し合った結果部車を買換えようという動きが出た。主な理由としては、一年車検になってしまい経費もずいぶんとかかっているのでは？ということであった。

そこで、何か良いアドバイス等はないものかと、幾度かに渡ってOBの方々へはがきを出したのではあるが、なかなか良い返事は返って来なかった。

そういった状況であったため、後はクラブの資金とOBの方々のカンパ等によりクラブのスポンサーのディーラーから買うしかないのでは……という話も出てきた。それならできるだけ安い車をということで、様々な車種が討議された。エンジンはガソリンとディーゼルのどちらにするかというのがまず初めの問題であった。経済性を考慮するとディーゼルになるが整備の面から見るとガソリンの方が良い、といった具合で意見は様々であった。

車種としてはトヨタカローラ、ニッサンサニー、いすゞジェミニといったものが挙げられた。何故こういった車になったかといえば、価格もそれほど高価でもないし、利用目的にも適している、といったことからである。その利用目的とは、ほとんどがクラブ行事の遠征とそれにまつわる練習ドライブであり、その他でも全九等試合に乗って行くことぐらいしかなかった。すなわち、以前の部車のように競技に出場したりすることはなく、移動用の車であればよかったのである。

そういう話し合いが進みはしたが結論が出ず、月日が流れていった。そして僕等が幹部となりこの話を引き継ぐことになった。そんなとき或るOBの方より「三菱の車なら安く手に入る」という知らせがあった。それは葉書で来たのだが、それには三菱の車とその状態が三車種書かれていた。そしてそれらを部会で討議した結果ミラージュにしたら良いのでは、ということになった。これが1989年3月頃のことであった。

そういう話が進んでいたある日、突然いすゞに勤められている木島さんがひょっこり学校にやって来られたのである。しかもジェミニを部車として提供してくれるという話と共に。その車はいすゞで広報車として使っているジェミニ1600イルムシャーであった。そして、諸々の手続きをしたのだが、その費用も全ていすゞの方が面倒を見て下さり、申しわけなく思いながらもその好意に甘んじた。

そうして、1989年4月にジェミニは我が自動車部へとやってきた。

つきましては、木島さん、他のOBの方々、様々な御援助どうもありがとうございました。

今では、ジェミニも部活動の中でいろいろと役立っております。

これからも、部員一同ジェミニを大切に扱い、また部活動に励んでいこうと思いますので、数々のご支援よろしくお願い致します。



九州工業大学責善会自動車部部則

第 1 章 総 則

第 1 条 当部は、九州工業大学責善会自動車部と称する。

第 2 条 当部は、自動車に関する整備・運転技術の修得及び研究をすると共に学生生活に於ける部員相互の親睦をはかり、且つ、自動車文化の向上に貢献する一方、部の健全な発展に努力することを目的とする。

第 2 章 組織及び構成

第 3 条 当部は、九州工業大学責善会体育会に属し、全日本学生自動車連盟に属する。

第 4 条 当部は、九州工業大学生をもって組織する。

第 3 章 役 員

第 5 条 当部は、部の運営に当たって次の役員を置く。

部	長	1名
顧	問	1名以上
監	督	1名
主	将	1名
副 主	将	2名
会	計	1名
書	記	1名
ラリー	委員長	1名以上
整備	委員長	1名
フィギア	委員長	1名以上
連盟連絡	委員	1名以上
O B 連絡	委員	1名以上
渉	外	1名

第 6 条 部長、顧問の推薦は役員が行ない。部員総会に於いて承諾を得、主将が依頼して部長、顧問の承諾を得る。

第 7 条 監督は原則として、前年度主将があたる。

第 8 条 主将、ラリー委員長、会計は推薦により選出し、部員総会に於て、承諾を得、部長が任命する。

第 9 条 副主将、フィギア委員長、整備委員長、書記、連盟連絡委員、OB連絡委員、渉外は立候補又は推薦により選出し、部員総会に於て承認を得、主将が任命する。

第 10 条 以上の役員の任期は、下半期の部員総会から翌年のそれ迄とする。

第 4 章 任 務

第 11 条 部長及び顧問は、当部の対外的交渉の責任者として、当部の指導・監督をする。

第 12 条 主将は当部の対外的交渉において部長及び顧問と連帯責任を持ち、且つ当部の運営の全責任をもつ。

第 13 条 副主将は主将の補佐を行なう。

第 14 条 会計は当部の一切の会計を担当し、部活動を統率する。

第 15 条 書記は当部の行事を一切記録し、主将に提出しなければならない。

第 16 条 連盟連絡委員は、全日本学生自動車連盟規約に準ずる。但し、代表委員は主将が兼任する事を原則とする。

第 17 条 整備委員長、フィギア委員長及びラリー委員長は、当部車、練習車の整備、フィギア及びラリーに関する責任を持ち主将を補佐し、部活動を統率する。

第 18 条 OB連絡委員会は、OBとの連絡に関する責任を持ち、主将を補佐し、部活動を統率する。

第 19 条 渉外は、後援者との連絡を常にとらなければならない。

第 5 章 部 員

第 20 条 原則として、当部の入部は年度始めとする。

第 21 条 当部への入部は、入部規定にもとづいて行なう。

第 22 条 当部員は、九工大自動車部昇格規定にもとづき A・B・C・D・E・F の 6 階級に分ける。

第 6 章 会 計

第 23 条 当部の経費は責善会予算部費入部金その他の収入によりこれにあてる。

第 24 条 部入部金は次の如くする。

部 費 1 ヶ月 1,000円

入 部 金 4,000円

第 25 条 入部金は入部する時納入し部費は毎月前納とする。

第 26 条 上半期、下半期の部員総会において会計報告しなければならない。

第 27 条 部費の納入義務は 4 回生ままでとする。

第 7 章 練 習

第 28 章 この章は、学内での練習及びラリー・ダートラ練習を行なう場合に適用される。

第 29 章 学内での練習は、次のように規定する。

1. 練習に際しては、始業点検及び終業点検を行なわなければならない。
2. 練習車を練習場等に運転していくことができるのは C 級以上である。
3. 練習車にて、練習を行なう場合、E・F 級は A 級、D 級は A・B・C 級の指導のもとに練習しなければならない。但し、夏合宿における E 級練習は、B・C 級の指導を認める。
4. 学内での練習は、大学の許可を得、それに従わなければならない。また、F 級練習は、練習場以外で行なってはならない。
5. 練習中練習者が指導者の指示に従わない場合、指導者は練習を中止することができる。

第 30 条 ラリー・ダートラ練習は、次のように規定する。

1. 整備された車で、練習を行なわなければならない。
2. 練習は、必ず 2 台以上で行なわなければならない。また、ラリー・ダートラ出場時には、A 級の承認を必要とする。
3. 練習は A 級が同伴し、責任をもって指導しなければならない。

第 8 章 運 転 規 定

第 31 条 この章は A・B・C・D 級の部車またはそれに準ずる車の運転を行なう場合に適用される。

第 32 条 当部は安全運転、交通法規遵守を宣言する。

第 33 条 部車の運転に際しては始業点検及び終業点検を行ない走行記録をつけなけれ

ばならない。

第 34 条 部車使用後は清掃して車庫に納めねばならない。

第 35 条 トラック以外の部車又はそれに準ずる車の運転に対して、B・C・D級の者は次の場合運転を禁止する。

1. A級の指導の下でない時。
2. 交通が混雑している時。
3. 夜間ヘッドライトを点灯する必要がある時。
4. A級の判断で、不相当とみなされる時。
5. 車庫の出し入れ時で誘導する者の居ない時。

第 36 条 第35条において、昼間B級が2名以上ど部用の為使用するに限りB級は運転することができる。

第 37 条 部車のトラックはA級のみ運転することができる。

第 38 条 部員もしくはそれに準ずる者以外の部車運転は禁止する。

第 9 章 事 故

第 39 条 運転を行なう際は事故を起こさない様に注意すること。万一事故を起こしたら交通法規に従って処置すること。

第 40 条 事故により当方又は相手の車又は人あるいは器物に損害を与えた場合次の条項で処置する。

1. 部用中の事故の責任比率は、A級会議で定める。
2. 私用中の事故は、運転車の名に於てすべて負担する。

第 41 条 部車又はそれに準ずる車の事故に関して、部の被むった損害の全てについて、主将は、運転車に請求することができる。

第 10 章 故 障

第 42 条 部車を運転する際、故障箇所があればすみやかに修理しなければならない。

第 43 条 使用中に於ける故障に対しては責任者が善処しなければならない。

第 11 章 会 議

第 44 条 当部における会議は次の4回議を言う。

1. 部 員 総 会

2. 部 会

3. A 級 会 議

4. 幹 部 会

第 45 条 部員総会は、上半期・下半期の 2 回を定期部員総会と称し必ず開かなければならない。

第 46 条 部会は主将が必要と認めた時開くことが出来る。

第 47 条 部会又は幹部会で必要と認められた時又は部員 10 名以上の要求があった時主将の名に於て部員総会を開く事が出来る。

第 48 条 全ての会議は、3 分の 2 の出席者によって成立する。但し、3 分の 2 に満たない場合でも、過半数以上の出席者があって、出席者全員の承認で諸会議は成立する。

第 49 条 部員総会は 1 週間前に公示しなければならない。

部会及び幹部会は 3 日前に公示しなければならない。但し、やむ得ない時はこの限りではない。

第 50 条 部則改正等の重要な議題は、部員総会、他の議題に関しては、部会に諮り、出席者の 4 分の 3 以上の承認をもって決議される。但し、出席者が 3 分の 2 に満たない場合には、出席者全員の承認をもって決議される。

第 12 章 罰 則

第 51 条 部員に対して次の各項に該当するものは、A 級会議の決議により主将は之を謹慎又は除名する事が出来る。

1. 本部則に著しく違反したものの。

2. 当部員たる対面を汚し統制を乱したものの。

3. 部費 2 ヶ月以上滞納したるもの。但し、この場合は掲示により 10 日間の猶予をおく。

4. 部員総会、又は、部会により決定された事に違反したる者。

第 52 条 事故に対して処罰を行なう必要があると、A 級もしくは主将が認めた時、主将は、ただちに A 級会議を開き、その処分を決定しなければならない。但し、謹慎は、次の如くする。

部員の犯した重大なる事故に対しては、運転車は 2 ヶ月以内とする。

第 53 条 部員は、交通法規違反による減点及び事故は、必ず主将に報告する義務がある。

第 13 章 改正 手 続

第 54 条 第47条・第50条の手續を経て改正出来る。

第 14 章 補 則

第 55 条 主将は、A級会議にかけて短期間に限り仮A級・仮B級をもうけることが出来る。

第 56 条 部車を使用して、私的利便行為をしてはならない。

第 57 条 部車の購入売却廃車は部会で決定する。

私 用 規 定

私用とは、原則として、定められた使用料金を部に納入して部車を使用することを言う。

1. 私用に関しては、第8章運転規定に基づく。但し、B・C・D級は練習ドライブ以外での運転は認めない。
2. 私用は次の全ての項目に該当する者のみ許可する。
 - (1) 部費および諸納金の滞納なき者
 - (2) 事故による謹慎が解除されて2週間以上経過したる者
3. 使用料金の納入は1週間以内とし、運転車が責任を持って会計に納入する。例外として、学校行事等の場合、部が責任を持つ。
4. 使用料金には、次の二つに群される。
 - (1) 部員料金……依頼者が部員又はそれに準ずる者である時
 - (2) 一般料金……依頼者が上記以外の者である時

昇 級 規 定

1. 次の各項に該当したる者は主将の名に於て資格を与える。
 - (1) F 級
入部規定にもとづいて新しく入部したる者
 - (2) E 級
交通法規の学科試験及び実技試験のE級試験を行ない。これに合格したる者。但し、E級試験対象者は次の各項に該当する。
 - a 部費等の滞納のない者
 - b 下級練習を一定の回数以上行なつたと幹部が認めた者
 - (3) D 級
E級にて公安委員会の発行する普通免許以上の免許を取得したる者。
 - (4) C 級
D級で次の各項にすべて該当したる者。
 - a D級になって3ヵ月以上経過したる者
 - b 部費等の滞納のない者

- c 合宿に参加したる者
- d 降級処分中でない者
- e 遠征に一回以上参加したる者
- f C級試験に合格したる者。但し、C級試験は原則として月1回行ない内容は、フィギュア・整備・ラリーの計算とする

(5) B 級

C級で次の各項にすべて該当し且つA級会議に於て全員一致の承認があった者。

- a C級になって3ヵ月以上経過したる者
- b 運転技術、整備技術が優秀とみなされるもの
- c 部活動に活発な者
- d 降級処分中でない者
- e B級試験に合格したる者。但し、B級試験は原則として月1回行ない内容は、整備・フィギュア・ラリーの計算・弁論とする

(6) A 級

B級で次の各項にすべて該当し且つA級会議に於て全員一致の承認があった者。

- a B級になって3ヵ月以上経過したる者
- b 運転技術、整備技術が優秀とみなされるもの
- c 部活動に活発な者
- d 降級処分中でない者
- e 部費等の滞納のない者
- f 部員の統率ができる者
- g 遠征に2回以上参加したる者。もしくはそれにかわる練習ドライブを行ないA級に安全運転であると認められる者
- e A級試験に合格したる者。但し、A級試験は原則として月1回行ない内容は、トラック運転・弁論とする

2. 昇級委員会を次のように設置する。

- (1) 監督が委員長を務め、A級の中から試験委員を任命する。但し、E級試験における交通法規の学科試験に関しては、C・B級でもよい。
- (2) くわしい試験内容は委員会が決定する。
- (3) 1週間前に試験日時を公示する。

3. 普通免許以上の免許を取得して入部したる者の昇格は原則として最初の昇格者に準ずるものとし、F級練習、E級昇格試験等を経なければならない。

降 級 規 定

1. 次の各項に該当したる者は主将の名に於てD級に降級とする。
 - (1) 部費等の滞納のある者。但し、この場合は掲示により10日間の猶予をおく。
 - (2) 交通事故を起こした者。但し、降級に値する事故であるかどうかはA級会議で決定する。
 - (3) 免停、又は減点3点以上になった者。
2. D級に降級した者は次の各時点で元の級に昇級する。
 - (1) 部費等の滞納のなくなった時。
 - (2) 交通事故を起して1年経過した時。
 - (3) 免停後無違反で1年経過した時。
 - (4) 減点0になった時。

練 習 ド ラ イ ブ 規 定

1. この規定は部車を使用して安全運転技術の向上を図る為に設けられたものである。
2. 原則として、トラック以外の部車を使用する。
3. 車1台につき、A級1人以上を同乗させる。
4. 原則として日帰りとし、それ以外の場合は主将の許可を必要とする。

入 部 規 定

1. 入部は、原則として年度始めとする。
2. 入部は、九工大学生に限る。
3. 入部を希望する者は、入部要領に記入の上、主将に提出しなければならない。
4. 入部届を提出して1週間以内に入部金を納入したる者は当部の部員たる資格を得る。

車庫使用規定

1. 車庫の管理は、整備委員長が行なう。
2. 車庫及び車庫前では、喫煙・飲食等は禁止である。
3. 整備した後は、必ず清掃しておかなければならない。また、使用した部の工具等は清掃し所定の場所に戻しておかなければならない。
4. 車庫及び車庫前に個人の車を駐車してはならない。
5. 原則として部員及びそれに準ずる者以外の車の乗り入れをしてはならない。
6. バイクの車庫乗り入れは、原則として、整備を目的とした場合のみで、エンジンを停止させた状態でなければならない。又、整備が終了しだい速やかに車庫から出さなければならない。また、車庫前で必要以上に乗ることを禁止する。
7. 上記の2～6に違反したる者には、主将又は整備委員長が、工具及び車庫の使用を必要な期間禁止することができる。

O B 名 簿

氏 名	科	勤 務 先	現	住 所	電話番号
(17年卒)					
豊 田					
(18年卒)					
芳 賀					
(19年卒)					
山 木					
佐 野					
(20年卒)					
平 位					
(21年卒)					
渡 辺					
古 江					
喜多村					
(22年卒)					
田 辺					

氏名	科	勤務先	現住所	電話番号
石 飛				
(23年卒)				
久 保				
太 田				
舛 谷				
田 中				
太 田				
大 野				
青 木				
(24年卒)				
真那子				
赤 松				
森 山				
(25年卒)				
沢 井				
島 崎				

氏名	科	勤務先	現	住	所	電話番号
中野						
溝口						
酒井						
白石						
松尾						
別所						
(26年卒)						
後藤						
塚田						
窪山						
川崎						
松田						
(28年卒)						
後藤						
佐武						
山田						

氏名	科	勤務先	現住所	電話番号
渡辺				
島				
(29年卒)				
城				
山田				
吉田				
広田				
(30年卒)				
渡辺				
中島				
(31年卒)				
蔵満				
河相				
(32年卒)				
楠田				
川崎				

氏名	科	勤務先	現住所	電話番号
前田				
安光				
丸山				
笠原				
(33年卒)				
林田				
江藤 (旧姓 吉村)				
池田				
中村				
小堀				
原田				
古屋				
川村				
松吉				
斎藤				
久保田				

氏 名	科	勤 務 先	現 住 所	電話番号
(34年卒)				
富 田				
塩 谷				
(35年卒)				
信 国				
進 藤				
本 多				
山 口 (旧姓 高間)				
(36年卒)				
香 月				
木 村				
飯 田				
久 富				
谷 岡				
渡 辺				
向 田				

氏 名	科	勤 務 先	現 住 所	電話番号
佐 伯				
(37年卒)				
山 田				
門 司				
小 野				
石 井				
木 島				
木 村				
倉 益				
(38年卒)				
野 口				
森 光				
増 田				
益 田				
栗 本				
犬 塚				

氏 名	科	勤 務 先	現 住 所	電話番号
高 橋				
藤 本				
宮 原				
花 田				
(39年卒)				
松 本				
古 武				
砂 本				
宮 崎				
常 富				
横 田				
三 偶				
中 原				
米 倉				
田 中				
高 宗				

氏名	科	勤務先	現住所	電話番号
小宮				
友永				
浜田				
(40年卒)				
大庭				
橋				
石原				
梅山				
六代				
木田				
(41年卒)				
甲村				
西岡				
ルス				
山田				
金児				

氏名	科	勤務先	現	住	所	電話番号
(42年卒)						
加藤						
浜本						
芳賀						
片岡						
市丸						
尾崎						
(43年卒)						
伊藤						
木庭						
宇塚						
長沢						
山本						
中島						
高崎						
進藤						

氏名	科	勤務先	現	住	所	電話番号
森 永						
山 根						
(44年卒)						
熊 本						
掛 水						
小笠原						
伊 藤						
松 原						
渡 辺						
井 上						
鶴 長						
(45年卒)						
釘 宮						
田 中						
八 木						
坂 本						

氏名	科	勤務先	現住所	電話番号
柴田				
(46年卒)				
柚				
桧原				
佐藤				
古河				
鞍馬				
山本				
新開				
山本				
中野				
細川				
福永				
野見山				
(47年卒)				
川越				

氏名	科	勤務先	現住所	電話番号
鳥飼				
森田				
(48年卒)				
浜田				
古本				
村上				
平松				
長尾				
小泉				
泡田				
高見				
井上				
大庭				
(49年卒)				
時松				
河野				

氏名	科	勤務先	現住所	電話番号
佐藤				
宮本				
山崎				
近藤				
堀川				
刀弥				
山地				
(50年卒)				
牛島				
田中				
中西				
西				
首藤				
浅野				
佐伯				
黒瀬				

氏名	科	勤務先	現住	電話番号
鳥越				
吉川				
晴田				
武村				
溝尻				
畑中				
(51年卒)				
白倉				
武地				
高橋				
本吉				
(52年卒)				
坂井				
芳前				
坂井				
嶋田				

○○
 OK
 房 ← ○
 ○○

氏 名	科	勤 務 先	現 住 所	電話番号
安 永				
永 田				
石 田				
的 場				
野 瀬				
松 本				
中 野				
(53年卒)				
八 木				
江 頭				
潮 崎				
三 浦				
政 近				
(54年卒)				
榎 本				
西 村				

氏名	科	勤務先	現住所	電話番号
舛重				
諸橋				
ok 早田				
人 木場				
? 近藤				
X 山下				
坂田				
四辻				
西原				
山内				
Q 倉地				
石野田				
松岡 (旧姓 帆足)				
三宝				
國栖				

氏名	科	勤務先	現住所	電話番号
(55年卒)				
孝橋				
中村				
福川				
測上				
松元				
石田				
太田				
太田				
光成				
網田				
大原				
島原				
府内				
(56年卒)				
藤本				

氏名	科	勤務先	現住所	電話番号
岩尾				
石松				
須藤				
徳永				
武藤				
山本				
島村				
高須賀				
三原				
(57年卒)				
X 山口				
阿部				
畠中				
石井				
大島				

氏名	科	勤務先	現住所	電話番号
X 寺田				
大野				
小野				
中村				
? 0 尾辻				
川村				
白水				
(58年卒)				
317 浦田				
永井				
広田				
高橋				
前田				
片岡				
(59年卒)				
稗田				

22

氏名	科	勤務先	現住所	電話番号
平瀬				
長沼				
大井				
小川				
津曲				
友田				
近藤				
那須				
(60年卒)				
森				
小林				
(61年卒)				
一瀬				
福島				
中村				
石井				

氏名	科	動	賽	先	現	住	所	電話番号
長木								
(62年卒)								
生越								
山田								
諸岡								
小嶺								
山本								
貞苜								
井上								
三角								
(63年卒)								
松原								
高以来								
柿木								

133

氏名	科	勤務先	現	住	所	電話番号
福田						
真島						
坂口						
小川						
坂田						
(平成元年卒)						
山下						
元木						
谷口						
永淵						
藤嶋						
近藤						
三好						
鶴田						
河野						

氏名	科	勤務先	現住所	電話番号
古寺				
(平成2年卒)				
✓ 城戸				
✓ 渡辺				
✓ 藤井				
✓ 高安				
✓ 今泉				
✓ 山崎				
✓ 永富				
✓ 御領				
(平成3年卒)				
✓ 黒田				
✓ 須賀				
福田				

懸命の努力をいたしましたが、まだ御住所のわからない方がおられますので、御存じの方は下記連絡先まで御連絡下さるようお願いいたします。

九州工業大学責善会自動車部

巻号	発行年	発行月	発行日	発行所	編集者
1	1952	10	25	東京理科大学	金澤 崇
2	1953	10	25	東京理科大学	金澤 崇
3	1954	10	25	東京理科大学	金澤 崇
4	1955	10	25	東京理科大学	金澤 崇
5	1956	10	25	東京理科大学	金澤 崇
6	1957	10	25	東京理科大学	金澤 崇
7	1958	10	25	東京理科大学	金澤 崇
8	1959	10	25	東京理科大学	金澤 崇
9	1960	10	25	東京理科大学	金澤 崇
10	1961	10	25	東京理科大学	金澤 崇
11	1962	10	25	東京理科大学	金澤 崇
12	1963	10	25	東京理科大学	金澤 崇

編集後記

前流星発行から6年目にして、やっと流星12号が完成いたしました。この編集を手掛けた時には、あれも、これも載せようと考えていたのですが、考えていたものの半分も載せることができませんでした。これも、編集委員である我々の怠慢によるものと深く反省しております。また、この部誌により、OBの方々に部の現状を知って頂ければ幸いです。

最後に発行が遅れたことに対し深くお詫び致します。